

(機密性 2 完全性 2 可用性 2)

令和 6 年度 (第 2 回)JCHO湯布院病院 地域協議会議事録

開催日時 令和 7 年 3 月 24 日(月) 18時 00 分～18 時 50 分(閉会)

開催会場 JCHO湯布院病院 2階 第1・2会議室

出席者 外部委員 8 名

岩男病院 院長 岩男裕二郎 様
大分県中部保健所 所長 藤内修二 様
由布市健康増進課長 吉野真由美 様
由布市高齢者支援課長 田代由理 様
日野病院 院長 日野修一郎 様
歯科吉村医院 名誉院長 吉村幸治 様
自治区会長 溝口泰章 様

院内委員 4名

院長 針秀太
看護部長 奥野美穂
事務長 國分克典
地域医療連携室長 倉橋久美

欠席者 外部委員 1 名

民生委員・児童委員協議会会長 衛藤哲雄

配布資料 議事次第・概況書・令和 6 年度活動実績

冒頭、病院より地域協議会について委員名簿、議事録(匿名化)をホームページで掲載する旨の説明がなされ、了承を得た。

1. 院長挨拶

皆様、お忙しい中、お集まりいただき、また常日頃から大変お世話になり誠に有難うございます。
湯布院病院を代表してお礼申し上げます。

今年度の医療面では、緊急対応数の上昇、各検査数の上昇、病床稼働率の上昇など目に見える変化や、各科の時間外診療の連携、近隣施設との関連強化、新たな施設への医療の供給、各学会や研究会への発表等も進み、職員個々の努力が病院全体の機動力向上に繋がった一年でした。

また、院内の改修、美化にも取り組みました。感染対策の一環であることは勿論ですが、主な理由はいろいろな来院者の方々から、「由布岳がもっと綺麗に見えるようにしてほしい」、「もっと窓から外が見たい」などの美観に関する要求や、経年劣化による雨漏れや避難経路の老朽化による安全性の不十分さが目立ったからです。各業者の方や職員のおかげでかなり改善されてきましたが、今年も引き続き改修と美化は継続いたします。

その中で、体育館も使用できるように準備中です。地域住民の方々や入院患者さんの健康増進のために利用していただければと思っています。他に災害時の避難所等、できれば地域に還元できるような、地域の役に立つような利用方法があればと検討しています。

(機密性 2 完全性 2 可用性 2)

患者さんのための病院ではありますが、職員も気持ちよく仕事のできる環境を提供できたらと常日頃考えております。これからもどうぞ湯布院病院をよろしくお願いいたします。

2. 委員紹介

委員名簿のとおり委員紹介

3. 議題1 「湯布院病院の現況について」 ※配布資料「湯布院病院概況書」

議題2 「令和 6 年度の活動実績について」 ※配布資料「令和 6 年度(2 月迄)の活動実績」

(病院より)

・資料に基づき委員へ報告。

4. 委員からのご意見

(外部委員より)

・脳外科はどこまでお願い出来るのか(委員)

→手術は出来ないが診断には問題ないです。医師 1 名なので脳出血の患者は搬送している(病院)

→二次救急病院に搬送するにしても同乗する看護師がいないのでためらってしまう(委員)

・整形外科の外来を午後にやっていただけるようになって助かる。自衛隊員が増えている。由布市でも約 190 人程増える。自衛隊の演習などで負傷した場合に当院では時間外の整形外科の対応が出来ないので整形的な負傷があった場合は「時間外を含めて湯布院病院さんへご連絡下さい」という言い方にて自衛隊へお伝えしています(委員)

→大丈夫です(病院)

・FAX で送らせて頂きましたが、4 月よりベット数を 20 床の病院にさせて頂いて、6 月からは無床ではないと思いますが、有床のクリニックへ開閉したいと思いき県の方へご報告させて頂いております。

看護師が足りず病棟の維持が出来ないということ、19 床を残したいという気持ちはあったのですが、消防法の関係でクリニックにすると新たに届出をしないといけない。4 床以上になると病院の中の全フロアにスプリンクラーを付けないといけない。建物が 60 年経っており今からスプリンクラーを付けるということは無理だと思うので、それで照会していただいた所で 3 床という形になると思います。3 月になって少しずつ施設に行っていただけ入院患者さんは行っただき、新規の患者の受入がなかなか難しく、4 月～5 月の間にどうしても施設では無理、地域包括とか又は先生の所に地元の方でどうしてもという方をご相談させて頂くかと思います。申し訳ありませんがご迷惑をおかけしますがよろしくお願いします(委員)

・インバウンドをよろしくお願いいたします(委員)

→外国人の診療は 10 分で済むことが 30 分かかってしまうし、最後の会計がなかなか面倒。また、後から診断書を送って欲しいと言ってくる(委員)

→紹介状も英語で書いてくれと言われますね(病院)

・入院患者数より看護師の数に苦戦している。夜間、外来に患者が来ると診療に看護師が割かれると本当に違法なんです(委員)

(機密性 2 完全性 2 可用性 2)

→当直医の手配も大変です(委員)

→介護の方を雇おうと思っても周りの旅館の方が時給が高く困っている。

・手術件数が増えているがどういう手術が多いのでしょうか(委員)

→手術的には、外傷・人工関節(膝・股関節・肩・脊椎)・関節鏡です(病院)

・経常収支の事ですけど赤字の補填はどのようにされているのでしょうか(委員)

→JCHO全体でみる形です(病院)

→あまり赤字が続くと、JCHO本部から湯布院は採算が合わないから潰してしまえという事にならないのかと心配があるのですがそういう事はないのでしょうか(委員)

→可能性は 0 とは言えないです(病院)

→そうするとインバウンドに対応する病院がなくなる。湯布院・由布市の市民にとっても非常にマイナスである。何とか経営努力をされてますが、存続に向けて頑張っていただきたい(委員)

・保養ホームの今後の形とか、方向性が出たのでしょうか。体育館は使用する、温泉プール利用、ホーム全体の建物の用法などありますか(委員)

→今後使用する予定がないので本部に掛け合って売り払うような手立てを進めています(病院)

→建物として使うのであれば、水、電気、耐震を含め難しいのではないかと、避難所としてはどうか(委員)

→自衛隊の官舎がない。賃貸のアパートも自衛隊でいっぱい(委員)

→自衛隊に官舎として使用していただくらどこに連絡をすればよいのでしょうか(病院)

→市の防衛対策課に連絡すればよい(委員)

→建物として本当に耐震などが大丈夫であれば真剣に考えた方がよい(委員)

・少し長い目で見たときに、地域の医療を確保するのに段々と難しくなってきたて、JCHOも全国的に展開されてますが、地域で他の医療法人、例えば日赤、医師会であったりそういう異なる設立母体と地域医療連携推進法人つまり地域でそれぞれの医療を勉強するためのこういう母体、緩やかな、合併や統合ではなく例えばそういう連携法人を作って、医師のお互いの融通、看護師の融通であるとかそういった事で診療科を少し特化したり、そこを強化したり、看護師確保はどれも難しいのでそんな風に優遇してどれくらい看護師不足を解消できるか、そういう形で地域の安定供給をするための体制強化になって、確か全国的にもJCHOが関わっている地域医療推進法案があるようで少しそういったことも将来的に構想として考え貴重なことなのではないでしょうか(委員)

(病院より)

本協議会は年間2回の開催を予定しており、次年度第 1 回目は令和 7 年 10 月に開催予定。

以上